

—総括表—		
◆ 事業計画		
<input type="checkbox"/> 地域の現状と今後の方向性		
下永谷地域ケアプラザの圏域エリアの人口は18,556人(R5.3)、高齢者人口は5,401人、高齢化率は29.1%です。孤立傾向や認知症高齢者、終末期、精神疾患等、様々な相談も増えています。地域住民や民生委員、医療機関など関係機関と協力体制を構築し、支援していきます。気軽に立ち寄れる福祉保健活動の拠点としての役割を幅広い年代層の方に周知し、福祉のまちづくりを推進していきます。		
<input type="checkbox"/> 今年度の重点的な取組		
新規	継続	—具体的な取組内容—
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	就労世代や障がい児者等にも、ケアプラザが福祉保健活動の拠点であることを周知していく。また、町内会に未加入でもケアプラザの場を活用し住民同士が繋がることのできるよう工夫をしていく。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	コロナ禍で低下した体力や気力の改善を目指し、介護予防の事業を実施する。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	地域の高齢化等で課題を抱えている活動団体や、コロナ禍で休止していた地域のグループ活動が、継続・発展できるように、後方支援を行っていく。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	地域の認知症キャラバンメイトと一緒に地域の会館等に出向いて認知症サポーター養成講座を開催する。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	様々な相談に対応できるようオンラインの活用を進め、利用周知をしていく。
◆ 事業報告・事業実績評価		
<input type="checkbox"/> 振り返り		
新型コロナウイルスの影響で様々な活動が停滞してしまったことから、改めて地域課題の掘り起こしや活動の再開・継続支援に力を入れてきました。福祉活動拠点となるケアプラザの周知として積極的な自主事業開催や広報誌、事業チラシを地域を通じて配布したり、ホームページを活用した。施設内だけではなく地域へ出向き、コロナ禍で低下した体力の維持・向上を目的とした介護予防事業の開催等も行った。町内会役員と課題の共有をする中で休止となったサロンの立ち上げ支援を行ったり、認知症サポーター養成講座を実施していく中で10名程の活動協力者を得ることができた。また、男性の居場所づくりとして以前事業に参加した方が中心となり男性の料理教室を再開した。障がい当事者保護者のつながりの場として講演会を行い、分かりにくい制度の説明や仲間づくり、情報交換の場としての活用を目的に継続実施した。		
<input type="checkbox"/> 区からのコメント		
一度活動が停滞してしまうと、再活性化させるのは簡単ではないと思いますが、活動再開に向けて積極的に地域に出向いていただきました。地域の身近な相談者として、顔の見える関係を構築することは大切ですので、引き続きよろしく願います。包括支援センター三職種で情報を密に共有しながら連携を図ることにより、個別支援に対しフットワーク良く丁寧な対応ができています。今年度の地域ケア会議では、生活支援コーディネーターと連携し、見守り協力事業所に呼びかけ、参加を促すことで、地域の活動を住民に知ってもらう機会となりました。引き続き、多職種での連携を意識し、各事業の発展を意識した取り組みの継続をお願いします。オンラインを活用し、生活支援課との相談や、協力医相談を行いました。デジタル化の良い面を活かし、相談者の負担軽減や、効率的な支援に向けた取り組みをお願いします。		